

# 2024年度 上田市立第六中学校 自己評価シート(中間報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価
<b>敬・和・創</b>	<b>敬:人を敬い、人から信頼される生徒</b> <b>和:人を認め思いやり、人と協力して活動する生徒</b> <b>創:自ら工夫し、納得するまで追究し課題を解決していく生徒</b>	教師と生徒がほどよい距離感を保ちつつ、悩みを相談できる雰囲気がある。このことから、「生徒指導」の2つの項目についての評価が高い。「学習指導」においては、授業の取り組みにおける学習ルールを今年度新に見直し、整理をした。今年度から「六中四則」を設け、授業のルールを全校で共有した。まず学習の準備を整えたうえで授業に向かえるようにし、職員は授業の中で生徒がタブレットを効果的に用いる場面、ペアやグループで対話し、考え合う場面を意識して設けている。一人となって追究する場面や、互いに自分の考えを伝え合い、友の意見により新たな考えを更新していくという学びのサイクルを構築している。その結果「分かる授業」や「集中して取り組む授業」の項目で概ね高い評価を得られた。「地域との連携」については、昨年度よりもA評価が高い。既存の行事に加え、地域公開参観の実施や、総合的な学習の時間や生徒会活動において地域に出る機会が継続できたことが要因と考えられる。 一方、今年度からC項目「わからない」という項目を増やしたことで評価が分散し、特に「家庭学習」や「歌声の響く学校作り」において高い割合が目立った。この「わからない」をどのように捉えるのか、職員で再度検討し、解決の糸口を見出していきたい。「規範意識の育成」に関しては、生徒の意識と職員の意識の差があると考えられる。揃えること、揃える必要のないことを検討し、生徒とともに望ましい学校生活のルールづくりに努めていきたい。
	<b>重点目標 1 (敬)</b> <small>【生活習慣の確立】・さわやかな挨拶 ・心をこめた清掃 ・時を守る行動            生徒:基本的な生活習慣の確立 職員:生徒とともに取り組む姿勢</small>	
	<b>重点目標 2 (和)</b> <small>【開かれた集団づくり】・合唱を通じた集団づくり・互いに認め高め合う・伝統の黄色いリボン運動            生徒:自他を認め合い、自己肯定感を高める 職員:共感的な人間関係を育む関わり</small>	
	<b>重点目標 3 (創)</b> <small>【前向きな学習への取組】・ねばり強く追究する姿・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び            生徒:自らが主体となり自己決定していく学習 職員:授業のUD化を通して、わかる授業の実現</small>	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題(7月アンケート実施) ※右の評価は職員アンケート結果から	A	B	C	D	E	今後の展望
教育活動	生徒指導	規範意識の育成	学校は身だしなみや学校生活のルールについて粘り強く指導しているか 職員は、生徒の規範意識を高めるために、自らの行動で示そうとしているか	身だしなみに関する生徒の規範意識は高く、気候に合った服装を自ら判断することができているが、年々割合が減少傾向にある。	8%	50%	8%	29%	4%	校内生活のルールは引き続き周知すると共に、生徒の主体性や判断も大切に考えていく。
		素直さ・感謝の心を育てる	職員は、生徒の努力やがんばりを認め、あたたかい言葉がけをしているか	子どもたちと近い距離感で生徒と教職員との積極的なコミュニケーションが見られる。	42%	54%	0%	0%	4%	子どもたちの意欲が高まるような支援・声掛けを続けていきたい。
		開かれた学校・学級作り	職員は、学級や生徒の良さを認め合い、互いの考えを発表しあえる共感的な雰囲気づくりに取り組み、楽しく、和やかな学校づくりに努めているか	職員が意識を高く取り組んでおり、学校を楽しみたいと感じる生徒が増えている。	38%	46%	8%	4%	4%	質問紙調査やアンケート等も効果的に活用しながら一人一人の子どもたちへの理解を深めたい。
	学習指導	分かる授業	職員は、子どもの良さを引き出すための、問いのある、わかりやすい授業づくりに努めているか	子どもたちの「問い」から始まる授業づくりにおいては達成状況に個人差が見られる。	21%	54%	13%	8%	4%	概ね、職員は授業の学習課題、問いを意識した授業づくりに努めており、今後も継続していく。
		集中して取り組む授業	職員は授業時間を守り、授業での追究方法を工夫し、一時間の授業に集中して取り組ませているか	各教科で職員は、教室でチャイムを聴き、授業をスタートさせている。また、生徒の追求場面での教材や声掛けをさらに工夫したい。	33%	50%	8%	4%	4%	生徒が本時の学習の見通しを持ち、自ら学び取っていくような授業展開を工夫していく。
		家庭学習への支援	職員は、教科の専門性を生かし、生徒が自己課題を明らかにし、家庭学習への見通しが持てるような助言をしているか	家庭学習の必要感を感じながらも工夫して取り組んでいる生徒は少なく、受動的な家庭学習となりがちである。	25%	33%	25%	13%	4%	各教科で家庭学習の取り組み方や、工夫をアドバイスするなど、生徒が主体的に取り組めるようにしたい。
		道徳性の涵養	学校では、生徒が自己の生き方や夢の実現について考えたり学んだりする機会をつくりだしているか	進路学習を中心に、生徒が自分自身の生き方や将来について考える場面を、多く取り入れている。	25%	33%	25%	13%	4%	多様な価値観に触れることや、対話的な学びを大切にしていきたい。
	教育課程	歌声の響く学校作り	職員は合唱に親しみ、歌う喜びを実感できる生徒を育てているか	音楽集会や文化祭における合唱発表会に向けた合唱練習など、工夫しながら合唱活動に取り組んでいるが、達成状況には差が見られる。	17%	29%	33%	17%	4%	日常的に合唱活動を取り入れながら、9月に行われる文化祭での合唱発表会に向けて、歌声の響く学校にしていきたい。
		不登校・不応応生徒への支援	職員は生徒の困り感や特性を理解し、一人一人に寄り添って支援をしているか	それぞれの子どもの個性や多様性に寄り添いながら、適切な支援を進めることができている。	33%	54%	8%	0%	4%	子どもたちの多様性に寄り添えるような学校と家庭の連携、学び場、居場所づくりを今後も大切にしていきたい。
		人権感覚の育成	学校では、黄色いリボン運動・人権教育等を通して、生徒の人権感覚が高まる指導をしているか	黄色いリボン運動の経緯や各学年に応じた人権教育を通して、生徒の人権感覚が高まるように工夫して取り組んでいる。	21%	63%	8%	4%	4%	生徒会活動や、人権教育で「黄色いリボン宣言」の意義を全校で共有しながら、今後も進めていく。
		生徒会活動	学校は生徒主体の生徒会活動となるように十分に支援しているか	生徒会役員を中心に全校の声を生徒会活動に取り入れることができた。また、生徒会黒板を効果的に活用し、全校生徒への呼びかけを行った。	33%	38%	25%	4%	0%	子どもたちの主体性を大切に、見通しをもち、計画性のある生徒会活動となるように支援していく。
	学校運営	地域との連携	愛郷心の育成	学校では、地域への愛着を高め、地域との連携を深めるための工夫をしているか	8月の参観日には、地域の方を講師に招き、様々な講座で生徒が楽しめる活動を取り入れることができた。また、10月に行われる「ふるさとタイム発表会」に向けて、発表内容や運営方法を協議している。	25%	38%	21%	13%	4%
地域から信頼を得る			学校は、学校便り、学年・学級便りや学校ホームページ等を通して、学校の様子を丁寧に知らせ、学校への理解を深めてもらおうとしているか	タイムリーな話題提供を心がけ、多くの人に親しんでもらえるような情報発信ができた。	46%	42%	4%	4%	4%	学校HPで日々の学校の様子を情報発信している。引き続き継続していきたい。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・わからない D・・・やや達成できなかった E・・・達成できなかった